

熱田区歴史スポットを紹介します！

◎50 音順で並んでいます。

あつたうおいちばあと 熱田魚市場跡

中世、熱田は伊勢湾に面しており、魚の供給地として400 年程栄えた。江戸期には、仲買や小座は数千人に達したという。



あつたじんぐう 熱田神宮

三種の神器の一つ草薙神剣(くさなぎのみつるぎ)を祀ったのが神宮の起源で、社が鎮座されたのは景行天皇の末年頃(2 世紀初め)とされる。古くから「熱田さん」と呼ばれ、6 月 5 日の熱田まつり(尚武(しょうぶ)祭)で親しまれている。本宮、拝殿、神楽殿などのほか、別宮の八剣宮、摂社の上知我麻神社など、境内には摂社 8、末社 18 が鎮座。歴史的建造物として、清雪門、西楽所、龍影閣、信長塀、佐久間灯籠、二十五丁橋などがある。宝物館には、刀剣、鏡など6,000 余点があり、公開されている。



えんつうじ 円通寺

曹洞宗、山号は補陀山。尾張氏が熱田社内に神宮寺として建立し、弘仁年間(810 から824)弘法大師が自刻の十一面観音像を安置し、円通寺と命名したといわれる。通称秋葉山といい、毎年12月16日の火渡り神事は有名。



かんちょうじ 観聴寺

西山浄土宗、山号は大悲山(だいひざん)。元和年間(1615 から 1624)正覚寺(しょうかくじ)十六世空山存宅(くうざんぞんたく)が開基したとされる。本尊は十一面観世音菩薩像である。室町期の鑄鉄地藏菩薩立像(県指定文化財)や月待(つきまち)供養碑(市指定文化財)がある。月待信仰は室町から江戸期にかけて盛んであった。



かなやまじんじゃ 金山神社

承和年間(834 から 848)神宮鍛冶職尾崎彦四郎の祖である善光が、屋敷内に勧請したことに始まり、尾張鍛冶の発祥の地といわれる。大祭は、11 月 8 日のふいご祭。



さいだんばし うばどう 裁断橋・姥堂

小田原の合戦の際、18 歳で病死した堀尾金助の供養のため、母が願いをこめて、東海道筋に架け替えたといわれる裁断橋の擬宝珠(ぎぼし)(市指定文化財)に刻んだ碑文が有名。2 階が「オンパコさん」を祀った姥堂。擬宝珠は名古屋市博物館に保管。



さ や かいどうどうひょう
佐屋街道道標

文政 4 年(1821)佐屋宿の旅籠連中が建立。佐屋街道は、東海道の宮から桑名までの海路「七里の渡し船」を避け、陸路で岩塚を経て佐屋に至り、佐屋宿からは木曾川を下り桑名に至る。



しろとりこふん
白鳥古墳

全長約 74 メートルの前方後円墳。6 世紀初め頃の築造。古くは日本武尊の墓と伝えられていたが、尾張氏の墓と考えられている。境内入口に本居宣長の歌碑がある。



しろとりていえん
白鳥庭園

平成 3 年にオープンした池泉回遊式の日本庭園で市内随一の規模を誇る。中部地方の地形をモチーフにしており、築山を御嶽山、川を木曾川、池を伊勢湾に見立て、壮大な水の物語をつくり出している。清羽亭は本格的数寄屋建築。



しろとりごさいもくじょうおふなくらあと
白鳥御材木場御船蔵跡

名古屋城築城にあたり、慶長 15 年(1610)、福島正則が堀川を開削したといわれる。別に材料場・船置場として大池が掘られ、後に木曾良材の貯木場となり、南側には艦船や御座船(ござぶね)を係留しておく御船蔵が置かれた。



しゅんようじ
春養寺

曹洞宗、山号は亀丘山(ききゅうざん)。文政 3 年(1820)創建。本堂前の線彫地蔵は、室町時代後期の作と推定される。境内には馬頭観世音菩薩像がある。



すみよしじんじや
住吉神社

享保 9 年(1724)に、摂津の住吉の神を勧請し創建した。境内に、名古屋の代表的俳人、圃暁(ほぎょう)、暁台(きょうたい)、士朗(しろう)の句を一石に刻んだ句碑(三吟塚)がある。



せいだいひじ
青大悲寺

如来教の本山、尼寺。山号は登和山(とわさん)。この地に生まれた「きの」が、享和 2 年(1802)に開基。室町時代に鑄造された等身大の鑄鉄地蔵菩薩立像は、県の指定文化財。



せいがんじ
誓願寺

浄土宗西山派、山号は妙光山(みょうこうざん)。享禄 2 年(1529)創建の尼寺。創建以前の久安 3 年(1147)に、鎌倉幕府を開いた源頼朝がこの付近で誕生したといわれ、産湯の井戸といわれるものが境内に残っている。



ぜんりゅうじ
全隆寺

曹洞宗、山号は大亀山(だいきざん)。慶長元年(1596)、一説には元和年間(1615 から 1624)に尾張最初の永平寺直末寺院として創建、開山した。1989 年改築。



とうかいどうどうひょう
東海道道標

宝暦 8 年(1758)、もう 1 基は寛政 2 年(1790)に建立された。道標は、東海道と美濃路または佐屋路の分岐点で、熱田神宮へは 2 丁(約 218m)ほどの距離にあることを教えている。



ぞうふくじ
蔵福寺

浄土宗西山禅林寺

派、山号は宝亀山(ほうきざん)。

延宝4年(1676)、当初は市民の生活のため、後には七里の渡し航行のためにも使われた、時を告げる鐘を設置。鐘楼は戦災で焼失したが、鐘は残る。



ほうじじ
法持寺

曹洞宗、山号は白鳥山(はくちょうざん)。弘法大師が自刻の地藏菩薩像を本尊とし

て小堂を建立したのに始まるとされている。芭蕉、林桐葉、若山牧水ら文人が句会・歌会を開いた。



だんぶさんこふん
断夫山古墳

東海地方最大の前方後円墳。6 世紀初頭の築造で全長約 151 メートル。古来、日本武尊(やまとたけるのみこと)の妃宮簀媛(みやずひめ)の墓と伝えられていたが、現在では尾張氏の墓と考えられている。国の指定史跡。



みや わたしあと
宮の渡し跡

東海道のうち宮・桑名間は唯一の海上路で宮の渡しは、尾張藩の海の玄関として栄えた。寛永 2 年(1625)に常夜灯が建てられ船の出入りの目印とした。現在では「宮の渡し公園」として整備、常夜灯、時の鐘の鐘楼が復元され、昔をしのばせている。



どといつはっしょう ちひ
都々逸発祥の地碑

寛政 12 年(1800)開店した鶏飯屋という茶屋に、お亀とお仲という美声の女子衆がいた。「ドドイツ・ドイドイツ」の囃子の潮来節に似た節回しの歌で評判を得たという。「殿々奴節根元集」により発祥の地といわれる。



みょうあんじ
妙安寺

臨済宗妙心寺派、山号は富春山(ふしゅんざん)。通称「沢の観音」。本尊の聖観音像は宋の古銭で作られたといわれる。その昔、境内から南西への眺望は絶景で文人墨客が往来した。境内には、芭蕉、士朗、岳輅(がくろ)らの句碑がある。

